

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770600173		
法人名	医療法人 陶山医院		
事業所名	有情の里		
所在地	香川県さぬき市大川町田面78-1		
自己評価作成日	平成27年8月31日	評価結果市町受理日	平成27年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiryosyoCd=3770600173-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成27年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日当たりが良く明るいアットホームな雰囲気がある。玄関や中庭には花を植え、フロアにも出来る限り季節の花が飾られ、春夏秋冬を感じられるようにしている。交通の便も良く、バスの定期便もある。夜は静かで虫の鳴き声が聞こえる。一日の流れは穏やかで、入所者さんには自由にさせていただき希望の生活リズムを尊重している。同敷地には医院があり、医療との連携は取れている。月々の行事や色々な業務も担当を決め、全職員が責任感を持って取り組んでいる。毎月”里だより”を作成して、入所者さんの状況をお知らせしている。来所された時等にもお知らせしている。又、問題が発生すれば、毎月のミーティングで職員同士で意見を出し合い、解決・対応している。施設犬を飼っており、誰もが癒され、来所される方々も楽しみにされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

開設12年目の事業所である。平成26年に「この里で 自分らしく輝いて 笑顔あふれる 住まい目指して」を新しい理念とし、毎月のテーマを職員が考え、理念を実践するよう努めている。同一法人の医療機関に隣接しており、医療との連携が密に図られ、利用者や家族の安心感に繋がっている。職員間のコミュニケーションもよく、情報の共有を図っている。毎月ミーティングや勉強会を開催し、サービスの質を高めるよう努めている。玄関には花々が植えられ、事業所内は、温かな雰囲気が漂っており、居間から利用者の笑い声と会話が聞こえ、明るい落ち着いたある家庭的な雰囲気が感じられる事業所である。施設犬を飼い、利用者や職員の癒しとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームに関係する全職員と話し合いをし、地域密着型サービスの意義を踏まえ、新たな理念を作成した。平成26年11月より理念に対するテーマを、毎月のミーティングで話し合い、目標に掲げて実践している。 理念「住み慣れた地域で、共に生きる、豊かで張りのある暮らし」	地域密着型サービスの意義を踏まえ、平成26年4月に職員の意見を基に新たな理念が掲げられた。理念を実践に活かすため、毎月ミーティングで、テーマを決め話し合い、日々の支援に活かしている。理念を掲示し、日々確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	当施設の近所に住所のある入所者さんの方も多く、顔見知りの方もたくさんおられるので、面会や外出（散歩）等での地域の方々との交流を大切にしている。又、日用品は近所の商店で買うようにしている。地区ボランティア、幼稚園児のクリスマス会訪問がある。	自治会には加入していないが、運営推進会議で地域行事の案内を受けており、事業所のイベントに地域のボランティアや幼稚園児の訪問がある。日常の散歩の際に、地域住民と挨拶し、会話を通し地域との交流が図れている。	地域に向け、事業所ができる活動や役割を発信し、地域との繋がりパイプをより太くし、更に地域との交流が図れることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所者さんの方と一緒に外出する事で近所の方々との親交を深め、質問や相談等に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者さんの方々の日々の過ごし方や、施設でのイベント等や事故やサービス改善に向けての取り組みも報告し、ご意見をいただき、次への改善に取り込んでいる。避難訓練に委員にも参加いただいている。	運営推進会議には、市介護保険担当者や地域包括支援センター職員、自治会長、婦人会、家族代表が出席している。事業所の報告を受け、参加者の提案や意見を得て、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の提出や運営推進会議での相談等、機会がある時には事業所の報告・連絡を行っている。又、市町村の取り組みに対して協力体制を整えている。	運営推進会議での相談以外にも、困難事例などを相談し、指導・助言を受けている。市からは市主催の講習会の情報が提供されるなど、良好な協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎年開催し、必要な書類や事例等で理解の周知に努めている。玄関の施錠は、時間・曜日・人員数を考慮して、その都度の判断で開放している。	身体拘束廃止委員会を毎年開催し、事例等を基に勉強会を行い、身体拘束について理解を深めている。玄関は、事業所の状況や時間帯により施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待(拘束)についての勉強会を定期的に開催し、全職員に理解を求め、実践している。又、新しい資料が増えれば、その都度ミーティングの議題にあげて勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングを活用して知識を職員に提供し、理解するよう努めているが、まだ満足の行く結果は得られていない。不定期でもよいので、勉強会は必要であり、今後の課題と考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を見ていただきながら説明している。又、もっとよく見ていただけるように持ち帰ってもらうようにもしている。不明な点の質疑応答にも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情箱を設置している。できるだけ面会時にもご意見を伺えるよう、声をかけるようにしている。意見や苦情は、職員全員に伝え、話し合いを持ち、結果については、ご家族にも伝えるようにしている。	管理者と職員は、年1回開催している家族会や日々の面会等の関わりの中で、利用者や家族から意見や要望を聞くように努め、運営に反映させている。家族には、「有情の里だより」を渡し、利用者の状況を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているミーティングには代表者や管理者も出席しており、職員からの意見や提案を聞くようにしている。その結果、体制や業務の変更を行っている。	代表者同席のミーティングでは、利用者に関する事例検討や学習をし、職員からの意見や提案を聞く機会としている。職員からの意見や提案を、運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員と個別に話し合える機会を設けており、意見や給与、勤務希望等を話し合える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数や希望に応じて、色々な研修へ参加機会を与えており、研修受講を実践に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同敷地内の通所介護施設や病院の関係者と、活発に意見交換をしており、必要に応じて勉強会を行っている。又、同市内のグループホームとは、定期的に意見交換出来る場を設け、情報の交換を行なっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階でご本人に直接お会いして、意見を聞いている。又、見学等で施設とはどんな所かも見てもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見については、ご本人が同席しない別室で話しを聞く機会を設けている。不安な事や要望等には、いつでもお答えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの相談や要望等には早急に対応して、可能な限り柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者である入所者さんの、たくさんの経験(料理・行事・地域の事)を教えていただいたり、共同で作業を行なったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	散歩やイベント・行事等、ご家族も共に参加出来る事には、参加をお誘いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある道を散歩したり、顔見知りの方と立ち話をしたりして、気さくな交流を持つようにしている。	家族や知人の訪問を大切にしており、地域の商店での買い物、美容院の利用支援、利用していたデイサービスへの外出を支援している。馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリとして、洗濯物干しや洗濯物たたみ、テーブル拭きや茶の葉入れ等を交代で行ったり、話をしながらゲームをしたりして、会話を楽しんでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一敷地内に通所施設や医院があり、状態の把握が出来る。又、連絡があれば、相談に応じる体制はとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの入居者の方とかかわる時間を、できるだけ多く持つようになっている。自身の思いを伝えにくい方に対しては、表情や行動、何気なく発する言葉から思いをくみ取るよう、日々の観察や声かけを行っている。	日々の関わりの中で、思いや希望を聞き取っている。意思表示が困難な利用者場合は、日常の表情や行動、家族や面会者から情報を集め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係者より情報を収集して、出来るだけご本人に合うサービスの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングによる職員間の情報の共有や日々の様子を見て、状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決め、ケアプランの実施状況の評価やモニタリングを行っている。面会時にご家族に意見を聞いたり、電話で意向を伺うなどし、ミーティングで全職員が意見を出し合い、介護計画に反映している。	介護計画は、計画作成者が家族や担当職員から得た情報を基に作成しており、更にミーティングで全職員で話し合い、意見やアイデアを反映させるよう努めている。家族の要望や利用者の変化に対応した介護計画の作成に、取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌に個別の様子を記録し、いつでも職員は見れるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人ひとりが要望・希望に対応出来るよう、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	婦人会の方や近隣の方に、ボランティアで催し物に来ていただいている。必要に応じて協力していただけるように消防の方や民生委員の方等と、支えていただけるような関係を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を尊重し、納得の得られたかかりつけ医と連携している。また、受診時は薬手帳や日々の記録を持参し、適切な医療を受けられるように努めている。	利用者全員が、隣接する協力医療機関をかかりつけ医としており、月2回の往診がある。他の医療機関への受診は、基本的には家族が同行をお願いしているが、状況に応じて支援をしている。受診結果は、家族やかかりつけ医と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の業務として、看護師と連携を取り合い、報告・相談をして、適切な受診や処置を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には薬手帳や介護サマリーを用意し、適切な情報が伝わるようにしている。又、提携する他病院には紹介状により、現在の状態を伝えてもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に書面や口頭により、ご本人やご家族に意見や希望を確認している。当施設での対応出来る範囲を説明し、必要に応じ他病院や医師・看護師とチームを組み連携している。	入所前に重症化や終末期について、本人や家族の意見や要望を聞き、事業所ができる範囲を説明し、理解を得ている。利用者の状況により、医師と連携を図り、本人や家族の希望を尊重するよう努めている。看取りに関するマニュアルを作成しており、看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状況に異変が予測出来る場合は、看護職員より急変時の手順の確認を受ける。又、年一回、定期的に救急救命訓練を実施し、消防隊員より職員が指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の火災・地震に対する防災マニュアルを作成しており、随時見直しをしている。年2回の避難・消火訓練を実施している。又、夜間や休祝日の緊急時の職員間の連絡網を作成、所属する全職員に配布している。近くに住む職員を、非常招集員として通達している。	年2回消防署の指導を受け、防災訓練を実施しており、今年度は11月以降に実施する予定である。防火や地震に関するマニュアルや緊急連絡網を作成しており、災害時の備蓄も確保されている。訓練に、利用者は参加しているが、地域住民の参加は近年ない。	災害発生時には、職員だけの対応には限界があるので、避難した利用者の見守りなど協力を依頼したいことを具体的に提案したり、事業所の災害訓練への参加を呼びかけるなど、地域との協力体制を築く取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の念を持って、個々に合わせた対応を行っている。医療で処置を行う際には、自室で行うようにし、羞恥心や自尊心に配慮している。なお、居室の入り口に、カーテンを設置し、プライバシーに配慮している。	利用者の尊厳を損なうような言葉や態度は見られない。職員は接遇に気をつけ、個性を尊重した対応に努めている。居室の入り口にカーテンを設置し、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択や日用品の購入、入浴の意思の確認等、自己決定をしてもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の状態・状況に応じて、生活のリズムを大切に、ご本人の希望に添えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容や整髪を行ってもらい、外出の際には季節に合わせた洋服を着てもらい、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は見た目にも食欲がわくように、盛り付けに配慮している。入所者さん一人ひとりの体調や状態に合わせた調理方法を選択して提供している。又、お膳拭きやテーブル拭き等を、出来る限り行ってもらっている。	法人の他施設で調理された料理を、事業所で利用者が食べやすい形態や量にして、盛り付けしている。明るい食堂で、職員や利用者が笑顔で楽しみながら食事をしている。お膳拭きやテーブル拭きなど、できる範囲のことを利用者に行なってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の方にメニューの作成をお願いしている。食事と水分の摂取量を確認し、記録している。又、10時・15時にはコーヒーやお茶を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にうがいや歯磨きの声かけを行い、介助が必要な入所者さんには洗面に誘導して介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。尿意のない入所者さんには、定期的にトイレの声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	トイレでの排泄を基本とし、排尿チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。夜間は利用者の睡眠と安全を考慮し、居室にポータブル便器を設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないように水分の提供を行い、体操や室内での歩行練習で適度な運動をしていただいている。チェック表により排便が見られない場合は、ご本人に確認し、又、医師に報告して、医療的処置を行う場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を用いて入浴した日の確認し、間隔が極端に開かないようにしている。一般浴だけでなく、特浴を利用されている入所者さんもいるので、安全を最優先に支援している。又、当施設の別館に、一度に多数入浴出来る浴槽があり、入所者さんに温泉気分を味わってもらっている。	一般浴とリフト浴での入浴が可能となっている。利用者の体調や状態、要望に配慮している。入浴を拒否される場合は、タイミングを見ながら声かけし、入浴を楽しめるように支援している。別館にある大浴槽で、温泉気分を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、入眠の時間を確認して、睡眠時間の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬手帳や服薬の詳細を見て、効能等を確認するようにしている。誤薬がないよう薬箱を2個設け、薬を渡す前に移し変える事で、職員が再確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が役割を持って生活出来るように、掃除や洗濯、植物の手入れ等を、生活リハビリを兼ねて行ってもらう。レクリエーションもそれぞれの好みや能力によって楽しんでもらうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出表を用いて外出の頻度を確認し、ご本人の意思を確認している。希望する入所者さんには、散歩や外気浴を楽しんでいただいている。又、毎月の行事でも季節や天候を考慮して、外出を取り入れ、ドライブを楽しんでいただいている。	季節に応じた外出は、年間計画を立て、利用者全員が参加している。ドライブの途中で、利用者が希望する店に立ち寄り、買い物を楽しんでいる。買い物や散歩などの日常の外出は、外出表を参考にして、利用者一人ひとりの希望や体調に配慮し、外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望を聞いて、現金を持っていたい入所者さんには持ってもらえるようにしている。外出時に買い物やされる方もおり、自己管理してもらっている。但しある程度の状況を職員が把握するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人から手紙や葉書が届いた時には、希望によりご本人が返事を書くのを支援している。又、携帯を持っておられる入所者さんには、自由に使用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については、清潔さや臭いに気をつけるようにしている。介護犬もいる為、定期的に掃除機を使用している。又、消臭剤も使用している。噴霧器を使用して、ミストを噴霧させ、ウイルスが発生した場合の対応策としている。	明るく広い玄関や食堂兼居間には、書道などの手作りの作品が掲示され、生活感や季節感を感じることができる。居間からは中庭が望め、大型テレビとソファが置かれている。廊下には、ベンチが置かれ居心地よく過ごせる工夫がされている。犬を飼われているが、清潔に保たれ臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや和室の共用空間でも、自由に移動、利用してもらい、テーブルの席替えも入所者さん方の希望を踏まえ実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた物や愛着のある物、使い慣れた物を自由に持参してもらっている。プライバシー保護のため、居室の出入り口に、カーテンを設置している。	居室は明るく、エアコンやベッド、クローゼットが備えられている。小物や筆筒など、使い慣れたものやテレビなどが持ち込まれている。家族の写真などが飾られ、思い思いに居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の表札やトイレ、脱衣室のプレートは、見やすいように、大きく、低い位置に設置している。屋内は、全てバリアフリーで車イスでの移動にも支障なく、自由な移動の確保が出来る。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見直し、各所に掲げ、常に目に触れるようにして共有している。毎月のミーティングで、理念に対する具体的なテーマを決め実践し、クリアできた場合は、次のテーマに取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会や手紙のやり取り、散歩等を通じて、地域とのつながりが出来る様支援している。又、日頃の買い物や散髪も、地元の店を利用している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所者さんの方を連れ、出来るだけ外に出て積極的に挨拶し、気軽に話していただけるようにしている。施設について尋ねられたり、身近な介護の相談を受けることもある。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居の状況、入所者さんの日々の様子や行事等出来るだけ伝えるようにしている。又、事故報告や取組状況も報告し、そこで頂いた貴重な意見をサービス向上に向けて、活かせるように努力している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や事業所の運営に関する質問し、運営推進会議の議題を相談等させていただいている。又、事業所の報告を行い、市町村の取り組みに対し、協力体制を整えている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、定期的に身体拘束に関する勉強会を行っている。事例をもとに話し合い、全員の正しい理解に努めている。玄関の施錠に関しては、可能な日や時間に限り、開放に向けた取り組みを行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての定義や職員としての心得を、勉強会を通じて理解を深め、虐待防止に努めている。新職員が入った際に行ったり、職員同士で言動等についても注意を払っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を持ち、理解を深める取り組みを行っている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の書面を見ながら順次説明しているが、一度自宅に持ち帰り、じっくり目を通していただくようにしている。不明な点があれば、いつでも尋ねてもらえるよう声かけを行っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱や苦情箱を設置している。又、面会時にも、できるだけご意見を伺えるよう声かけを行っている。頂いた意見や苦情は、全体に周知し、話し合いを持つようにしている。結果については、ご家族に伝えるようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングは、代表者や管理者も出席し、運営に関する意見や提案を直接話すことができ、意見交換を行っている。その結果、体制や業務の変更を行っている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は、職員と個別に話し合える機会を設けており、勤務希望、給与、業務について話し合うことができる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員からの話に耳を傾け、個人の力量を把握するよう努めている。各自の経験や習熟度等、段階に応じた研修の参加を促している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同敷地内の他施設や医療関係者とは、日ごろから意見交換しており、合同の勉強会や訓練等も行っている。又、さぬき市内のグループホームとは定期的に意見交換できる場を作り、情報交換を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必要な応じて職員が自宅訪問したり、ご本人に施設見学に来ていただいたりしている。ご本人の要望や不安に耳を傾け、安心して入居できるよう取り組んでいる。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を、ご本人が同席しない場で、ゆっくりと聞く時間を設けるようにしている。ご家族の思いを受け止め、極力要望に応えられるよう努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との面談、ケアマネージャーから情報収集を行い、支援の見極めに努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者を人生の先輩として尊敬し、日々の暮らしの中で風習や料理の作り方を教わったりして、隔たりなく接している。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設行事や外出の際協力をお願いしたり、子や孫の面会、住み慣れた自宅への外出、外泊など、ご家族ならではの支援をお願いし、ご本人とご家族の関係維持に努めている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺の散歩をしたり、近隣の人との会話を楽しまれたり、以前通所していたデイサービスに出かけたりして、交流が途切れないよう支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話し好きな方、聞き上手な方など、ご利用者同士の関係を把握したうえで、食堂の席を決めたり、一人ぼっちにならないように配慮している。ご利用者同士が声を掛け合っレクリエーションや洗濯物たたみに参加されている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談に乗り、ご家族やご本人の支援に努めている。退所後も会えば、言葉を交わし、相談しやすい環境づくりに努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの入所者さんとかかわる時間を、できるだけ多く持つようにしている。自身の思いを伝えるに難しい方に対しては、表情や行動、何気なく発する言葉から思いをくみ取るよう、日々の観察や声かけを行っている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のご本人との面談、入所時ご家族に話を伺うなどにより、日常の生活状況や生活歴を把握している。入所後も、随時新しい情報を追加し、より正確な情報の把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日々の記録、ご本人の発した言葉なども伝え、心身の状況を把握するとともに、チームカンファレンスや生活記録を通して、総合的に把握するようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決め、ケアプランの実施状況の評価やモニタリングを行っている。面会時にご家族に意見を聞いたり、電話で意向を伺うなどし、ミーティングで全職員が意見を出し合い、介護計画に反映している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他施設のものを参考にしたり、職員の意見をもとに記入しやすく見やすい記録に改善することで、情報の共有がしやすくなり、ケアプランの実施状況と結果、モニタリングや介護計画の見直しへの流れが解りやすいようにしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、受診の付き添い、買い物などの外出支援を行っている。日々の大まかな予定や計画にとらわれることなく、状況に応じて柔軟に対応している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を利用し、地域の行事への参加希望などを伝えている。また、今後グループホーム同士の交流も検討している。地域の文化祭や展示会等の見学も積極的に支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の方の希望を尊重し、納得が得られたかかりつけ医と連携している。また、受診時は薬手帳や日々の記録を持参し、適切な医療を受けられるように努めている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師と情報交換を行い、小さな変化も伝えるようにしている。隣接の医院、通所介護施設の看護職員とも常に連携の体制をとっている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当看護師等と連携をとり、病状説明や退院前のカンファレンスに参加できるようにしている。入院期間が長くなった場合には、面会に行き、状態の把握に努めている。又ご家族とも連絡を取り、退院後の生活等の相談にのり、安心して治療ができるようにしている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時からご本人やご家族の意向を確認している。その際グループホームでできることを説明し、必要があれば医師、ご家族やご本人と話し合い、今後の方針を考えているが、基本的には隣接の医院に委任している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体的に急変が考えられる場合は、看護師から急変時の手順の確認を受けている。急変時や事故発生時のマニュアルをもとに、研修を行ったり、AEDも設置し、講習を行っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災監理者の意見に準ずる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の念を持ち、個々に合わせた対応を行っている。医療的な処置を行う時は、自室で行うようにし、羞恥心や自尊心に配慮している。なお、居室の入り口にはカーテンを設け、プライバシーに注意している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に応じて声かけの方法を考え、思いを表出しやすいよう心掛けている。更衣時の洋服選びも、なるべく自己決定してもらえるようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調面等個々の状態に合わせ、食事時間をずらせたり、レクリエーションの参加もご本人の意思を尊重し、それぞれのペースに合わせた支援を行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には洋服を着替えたり、帽子やスカーフを身につけられたりしている。毎朝化粧する方もおられ、必要に応じて化粧品の購入も行い、施設にいても、おしゃれができるよう支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はおかゆや刻み等、個々に対応している。ゆっくりと楽しんで食事が摂れるよう配慮し、食後のお膳拭きやテーブル拭き等を、一緒に行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士にお願いしている。食事量や水分摂取量を確認し、記録している。また、いつでも水分が摂取できるよう対応している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きを行うよう声かけや誘導を行っている。洗面台には、歯磨きセットを置き、口腔ケアが行いやすいようにしている。義歯の方には、夜間は薬剤を使って洗浄を行うようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンの把握に努めている。できるだけトイレで排泄ができるよう、声かけなど支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すようリビングではいつでも水分が摂れるようにし、便秘体操なども取り入れている。排泄チェック表を確認し、排便が見られない場合は、投薬や腹部マッサージや洗腸を行うこともある。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を利用し、週2～3回入ってもらえるようにしている。ご本人の希望や体調面を考慮し、臨機応変に対応している。ゆっくりと安全に入浴を楽しんでいただけるよう支援を行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間を決めず、一人ひとりのペースでお好きな時間に就寝してもらっている。また、眠そうにしている場合には声かけ誘導している。落ち着いて安心して眠れるよう、照明や音に配慮している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬時間ごとに一人ずつ手渡しし、飲み込みも確認している。又、新しい薬が処方された時には、処方された理由も記録し、全員に周知し、服薬の理解を行っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者それぞれが役割を持って生活できるよう、玄関掃除、洗面台磨き、おしぼり干し、お膳拭きやテーブル拭きを、担当を決め行って頂いている。又、レクリエーションや作品作りは、各々の得意分野や能力を生かせるような内容に配慮している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出表を利用し、声かけを行っている。周辺の散歩をはじめ、入所者さんの希望で買い物や自宅のお墓参りに出かけたこともある。又、普段あまり外出されない方も、全員が参加できるように中庭や玄関先でおやつや外気浴を行い、気分転換できるように支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、1名の方が小遣い程度のお金を管理されている。それ以外の方も買い物時には財布を持ち、自由に商品を選んだり、支払いをしたりと、買い物を楽しめる工夫を行っている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは、便せんや封筒、宛名シール等を用意し、一緒に郵便局へ投函に行く支援を行っている。娘さんやお孫さんからの葉書も届き、楽しみにされている。又、電話については、その都度対応している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、清潔や臭いに配慮し、玄関やフロアには季節の花や作品を飾っている。テーブルやソファも安全に移動できるよう設置している。ゆったりしたソファでテレビを見たり、和室で自由に横になることもできる。冬はこたつも用意している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外でも、フロアより少し離れた場所に小さなテーブルと椅子を設置し、1人になれたり2～3人で話ができるようにしており、日ごろよく利用されている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの家具や好みものを持ってきていただいている。各部屋とも十分に採光があり、ドアが開いていても、カーテンでプライバシーが守れるよう配慮している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレのプレートは、見やすいように大きく低い位置に表示している。居室はバリアフリーで、各々の状態に応じて、手押し車や車いす、ポータブルトイレ等を使用している。